

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語教育研究センター
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 全学的に学生の英語運用能力向上を目指し、英語インテンシブ・プログラムのクラス数を3年以内に2割増加させる。	→多言語・多文化の視野に立った学部横断的な言語教育のメニューを提供する。	A
2. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の教育と研究に関する共同研究の実施。	→「言語コミュニケーション教育ならびに言語教育のカリキュラム・教材の開発と研究」をテーマとした、各言語部会における共同研究成果の公表、『センター研究年報』の発行。言語教育に係る専任教員の成果公表、『言語と文化』の発行。	A
3. 選択必修科目としての中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の全学提供体制を見直す。	→全学提供体制をとる言語の体制の充実・改善。（履修希望者数、開講クラス数を指標として）	B
4. 多言語・多文化の視野に立った学部横断的な言語教育のメニューを提供する。	→12種の選択言語の提供。インテンシブ・プログラムを含む全学的な言語教育活動を紹介するパンフレットの作成と配布。	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
		☆
		☆

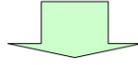
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目0.0.1	(理念・目的) 言語教育を通じて、国際人として活躍しうる言語運用能力と異文化に対する優れた理解能力を有する人材を育成する。 (現状説明) 英語、フランス語、ドイツ語のインテンシブ・プログラムやMDS（英語コミュニケーション文化）を実施している。また、各語種ともレベル別クラスを編成し、各学生毎の言語運用能力の差異に対応している。設定されている理念目的については、履修学生の言語運用能力の着実な向上から、適切であると判断する。
☆ 小項目0.0.2	(現状説明) 各インテンシブ・プログラムは入学時オリエンテーションを実施し、英語インテンシブ・プログラムについてはさらに2回の履修ガイダンスを実施し、毎回数百名を超える学生が出席しており、十分に周知徹底されている。また、履修学生の募集、履修状況等については各学部から選出された委員によって構成される英語教育委員会において、逐一報告と各学部への伝達を依頼している。
☆ 小項目0.0.3	(現状説明) 各言語の教育委員会において、当該プログラムの理念・目的をさらに徹底すべく、たえず次年度クラス数の設定やカリキュラム改訂などが検証されている。特に、規模の大きい英語インテンシブ・プログラムおよびMDS（英語コミュニケーション文化）については、毎月、英語担当副長、英語コーディネイター、センター事務室担当者、常勤講師コーディネイターによって構成されるLC Meetingにおいて緻密にプログラムを検証している。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目0.0.1	履修学生の言語運用能力ならびに多文化理解は着実に向上している。
小項目0.0.2	各履修ガイダンスには多数の学生が関心を持って集まり、インテンシブ・プログラム等に対する認知度が向上した。
★ 小項目0.0.3	各プログラムの応募状況は徹底的に検証され、次年度募集に活かすことができている。
その他	



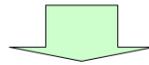
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目0.0.1	異文化理解に資するMDS（英語コミュニケーション文化）プログラムの拡充と改定を検討する。
小項目0.0.2	本年度全面的に改定したインテンシブ・プログラム案内パンフレットの一層の有効活用を検討する。
★ 小項目0.0.3	引き続き現在の検証体制を維持すべく、ノウハウを有する現担当事務職員の契約の更新、あるいは専任化が必須である。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目0.0.1	理念・目的である言語習得と多文化理解教育の実行は主として契約常勤講師に依存しているが、常時行われている採用活動に加え、突然の講師辞職などがあり、現在の体制には不安定な要素がある。
★ 小項目0.0.2	学部毎に言語教育研究センター提供のプログラムに対する学生の関心度に偏りが見られる。
小項目0.0.3	言語教育研究センターの各種プログラムの運用と検証を支える事務体制の補強が望まれる。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目0.0.1	IEFLコーディネーターの専任化と契約条件の改善を検討する。また、良質の講師を確保するために、講師の再雇用制度の導入を求めてゆく。
小項目0.0.2	比較的参加度の低い学部に対して、さらにプログラム内容の周知徹底を依頼する。
★ 小項目0.0.3	専門的ノウハウを持つ契約職員の専任化を大学に求めてゆく。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★ その他 (自由記述)	
-----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

- 多くの課題に積極的に取り組んでおり、評価できます。
- 記述されている内容は適切ですが、本欄ではセンターの理念・目的では適切であって、それを学内構成員だけでなく社会に公表しているかについての記述が求められているので、加筆することが望ましいと思われます。
- 2010年度以降の目標は後日受付についてご案内します。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

- ★ (小項目0.0.2の現状説明に関して)
言語教育研究センターの各言語のインテンシブ・プログラム、MDS、その他の多くのプログラムは、センター研究年報の発行、大学のホームページや大学の広報誌（空の翼）などを通して社会に公表している。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

0.0.0.S1	本学の育成した人材(卒業生)に対する社会(企業)の評価
0.0.0.S2	卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか
0.0.0.S3	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率
0.0.0.S4	卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率
0.0.0.S5	在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率
0.0.0.S6	本学出身でキリスト教関連活動に従事する者(牧師を含む)の数
0.0.0.S7	理念の周知について(1)―理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数
0.0.0.S8	理念の周知について(2)―総合コース「『関学』学」の履修者数

<個別的な指標>
